

\*\*2009年9月改訂(第4版 販売名変更に伴う改訂他)

日本標準商品分類番号

87729

\*2005年6月改訂

貯 法: 2~8℃保存(凍結不可)

使用期限: 直接の容器、外箱に表示(1年)

\*\* 薬価収載 2009年9月  
販売開始<sup>(注)</sup> 2009年9月

(注): 旧販売名として1968年3月販売開始

アレルギー検査薬

## 診断用皮内エキス 真菌類

\*処方せん医薬品: 注意—医師等の処方せんにより使用すること

販 売 名	承認番号
診断用アレルギー皮内エキス「トリイ」アスペルギルス1:10,000	22100AMX01253000
診断用アレルギー皮内エキス「トリイ」アルテルナリア1:10,000	22100AMX01254000
診断用アレルギー皮内エキス「トリイ」カンジダ1:10,000	22100AMX01255000
診断用アレルギー皮内エキス「トリイ」クラドスポリウム1:10,000	22100AMX01256000
診断用アレルギー皮内エキス「トリイ」ペニシリウム1:10,000	22100AMX01257000

### \*\*【組成・性状】

組 成	本剤は各々の真菌培養液から得た凍結乾燥物に50%グリセリン溶液及び緩衝食塩溶液を加えて得た特異的アレルギーを含む溶液で、凍結乾燥重量に対して10,000倍液(1:10,000)である。
添 加 物	濃グリセリン0.56%(w/v) フェノール0.50%(w/v) 塩化ナトリウム0.50%(w/v) リン酸二水素カリウム0.04%(w/v) 無水リン酸一水素ナトリウム0.07%(w/v)
性 色	無色～淡褐色澄明
	pH 6.5～7.5
状 浸透圧比	約0.8(生理食塩液に対する比)
	製 法
販 売 名	原菌名
診断用アレルギー皮内エキス「トリイ」アスペルギルス1:10,000	<i>Aspergillus fumigatus</i>
診断用アレルギー皮内エキス「トリイ」アルテルナリア1:10,000	<i>Alternaria kikuchiana</i>
診断用アレルギー皮内エキス「トリイ」カンジダ1:10,000	<i>Candida albicans</i>
診断用アレルギー皮内エキス「トリイ」クラドスポリウム1:10,000	<i>Cladosporium cladosporioides</i>
診断用アレルギー皮内エキス「トリイ」ペニシリウム1:10,000	<i>Penicillium luteum</i>

を中止することが望ましい薬剤があるので注意すること。

(6)反応が陰性を示したときでも、問診等から原因アレルギーとして特に疑われる場合には、日を改めて再検査することが望ましい。

\*\* (7)非選択的β遮断薬服用患者への注意

検査のために本剤が投与されたときに、本剤による反応(アレルギー反応)が強くなる可能性がある。また、本剤によるアレルギー反応の処置のためにアドレナリンを投与したとき、アドレナリンの効果が通常の用量では十分発現しないことがある。

### 2. 副作用

(1)重大な副作用

ショック(頻度不明)

ショックを起こすことがあるので、観察を十分に行い、くしゃみ、蕁麻疹、血管浮腫、不快感、口内異常感、喘鳴、耳鳴等があらわれた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。

(2)その他の副作用

観察を十分に行い、次のような症状があらわれた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。

	頻度不明
過敏症	喘息発作の誘発、眼瞼又は口唇の浮腫、発疹、掻痒等

### 3. 高齢者への投与

一般に高齢者では生理機能が低下しているので検査に際しては注意すること。

### 4. 妊婦、産婦、授乳婦等への投与

ヒスタミンは子宮筋収縮作用を有することが知られているので、妊娠中はヒスタミン遊離が考えられる広範なテストは避けること。

\*\* 5. 適用上の注意

\*\* (1)投与時

別添販売の皮内反応用対照液(診断用アレルギー皮内エキス対照液「トリイ」)を同時に用いて反応を比較すること。

(2)判定時

真菌類のエキスは遅延型反応を認めることがある。

### 【包 装】

2 mLバイアル

### 【文献請求先】

鳥居薬品株式会社 お客様相談室

〒103-8439 東京都中央区日本橋本町3-4-1

TEL 0120-316-834

FAX 03-5203-7335

製 造  
販 売 元



鳥居薬品株式会社

東京都中央区日本橋本町3-4-1

### 【効能又は効果】

診断

アレルギー性疾患のアレルギーの確認

### 【用法及び用量】

診断

通常本品0.02mLを皮内に注射し、15～30分後に発赤径20mm以上または膨疹径9mm以上を陽性と判定する。

### \*\*【使用上の注意】

\*\* 1. 重要な基本的注意

- ショック等の発現を予測するため、十分な問診を行うこと。
- ショック発現時に救急処置のとれる準備をしておくこと。
- 投与後患者を安静の状態に保たせ、十分な観察を行うこと。
- 小児、老人及び神経質な患者では、まず原則としてスクラッチ法(搔破反応)を試みてから皮内反応にうつることが望ましい。  
特に食餌性アレルギーエキス投与に際して注意すること。
- 正確な皮内反応を行うため、皮内反応検査前日から抗ヒスタミン薬やメチエータ遊離抑制薬の投与を中止すること。  
また、皮内反応検査を実施する約1週間前から投与